

ブラジル商工会議所 - 化学品部会

Chamber of commerce - Section of Chemicals

「2017年上期の回顧と下期の展望」

副題：回復途上のブラジル経済 - いま打つべき戦略は

日付：2017年8月24日（木）

発表：ThreeBond do Brasil 鎌倉勇人

1. 世界の化学業界の動向
2. 日本の化学業界の動向
3. ブラジル化学品部会の2017年上期の回顧と下期の展望(市場別)
 - 3-1. 輸送(自動車、バイク、飛行機など)
 - 3-2. 農業(農薬、飼料、肥料など)
 - 3-3. ヘルスケア(食品、化粧品、医療品など)
 - 3-4. 印刷(インキ、製紙、フィルムなど)
4. 総括
5. 「回復途上のブラジル経済いま打つべき戦略は」



1. 世界の化学業界の動向

化学産業の世界売上規模ランキング(2015年)

順位	企業名(国名)	売上規模 [単位:100万ドル]
1	BASF (ドイツ)	78,698
2	ダウ・ケミカル (アメリカ)	58,167
3	中国石油化工集団 (中国)	57,953
4	サウジ基礎産業公社 (サウジアラビア)	43,341
5	エクソンモービル (アメリカ)	38,178
6	台塑関係企業集団 (台湾)	37,059
7	ライオンデルバセル (オランダ)	34,839
8	デュポン (アメリカ)	29,945
9	イネオス(スイス)	29,652
10	バイエル(ドイツ)	28,120
11	三菱ケミカル(日本)	26,342
12	ロイヤルダッチ(イギリス・オランダ)	24,607
13	LG化学(韓国)	21,456
14	ブラスケム (ブラジル)	19,578

2015年末
ダウケミカル(2位)
デュポン(8位)
合併
10兆円規模!

2016年上期
中国石油化工業(3位)
シンジェンタ(スイス)を買収

農業分野で
ダウデュポンを上回る規模

2016年下期
バイエル(10位)
モンサント(アメリカ)を買収

2. 日本の化学業界の動向

* 日本の化学業界の規模を示す指標: **農薬と石油化学**

農薬

時期	企業名	動向
2015年	日本農薬	ハイデラバードケミカル(インド)を子会社化
2016年	住友化学	エクセルクロップケア(インド)を買収
	三井化学アグロ	PIインダストリアーズ(インド)と合併で農薬登録会社を設立
2017年	クマイ化学	有効成分を製造するイハラケミカル工業を吸収合併

石油化学

各種プラスチックや合成ゴムの主要原料(石油 → ナフサ、灯油 → エチレン、プロピレン)

時期	企業名	動向
2014年	三菱化学	鹿島エチレン第一プラントの稼働停止(生産量:343千トン/年)
2015年	住友化学	千葉エチレンプラントの稼働停止(生産量:380千トン/年)
2016年	旭化成	水島エチレンプラントの稼働停止(生産量:443千トン/年)

- リーマンショック以降、主要製造業が日本から海外移転、その後の東日本大震災が決定的。
- シェール革命により、アメリカの石油化学産業が復活。
(アジアの石油由来のエチレンより、アメリカの天然ガス由来のエチレンがコスト面で優位になった)

化学業界自体そのものが、一つの大きな岐路にさしかかっている！

3. 2017年上期の回顧と展望

化学品部会所属企業・団体：71社
→ アンケート協力：26社（工場あり：15社）

＜アンケート方法＞
各市場で売上と利益の
増減調査を実施

＜化学品部会が関わる市場＞

市場	アンケート数	化学品部会 企業占有率
輸送（自動車・バイク・航空機）	20	33%
機器（工作・電気電子・医療品）	5	8%
ヘルスケア（食品・化粧品・医薬品）	12	20%
農業（農薬・飼料・肥料・酵素）	6	10%
印刷（フィルム・製紙・インキ）	6	10%
建築	4	7%
服飾	1	2%
コンシューマー	6	10%

計60件

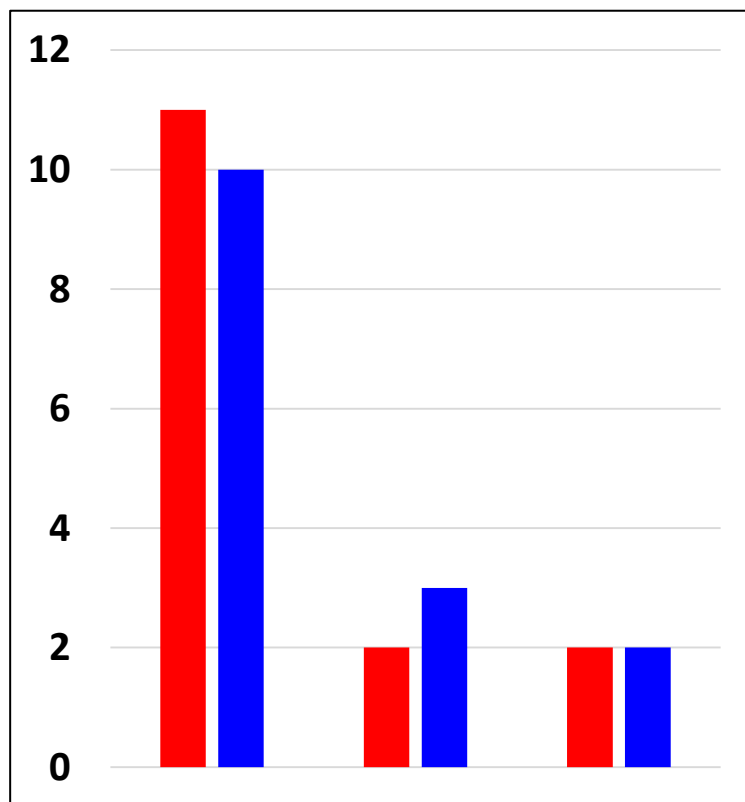
3. 2017年上期の回顧と展望

■ 輸送（4輪・2輪・飛行機）

用途：エンジン用シール剤、プラスチック部品（原料）、潤滑油、ガラス素材など

売上 利益

ポジティブ ネガティブ



増加

不変

減少

<業界動向>

- 4輪：同期比で、販売・生産台数増加
- 2輪：市場回復が遅延

<各企業の売上増減の要因>

- 設備投資
- 新市場開拓
- 生産性の向上（生産体制の見直し）
- 顧客の支払い遅延（信用不安）

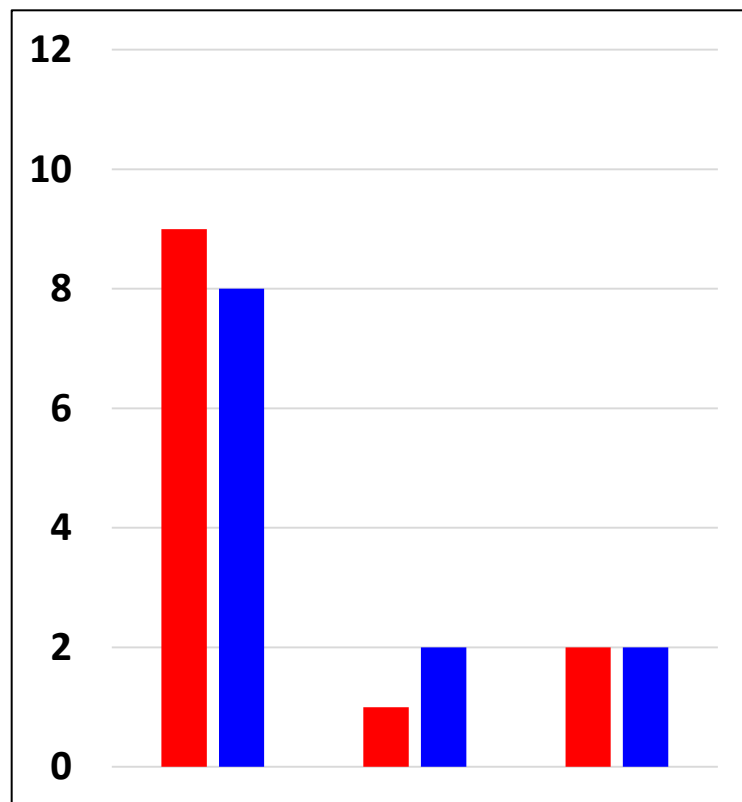
（2016年比較）2017年上期

3. 2017年上期の回顧と展望

■ 輸送（4輪・2輪・飛行機）

用途：エンジン用シール剤、プラスチック部品（原料）、潤滑油、ガラス素材など

売上 利益



増加

不変

減少

<下期に向けた対策>

- 失った顧客の再獲得
- 市場がさらに回復
- 輸入品からブラジル内製品に切替

2017年下期展望

3. 2017年上期の回顧と展望

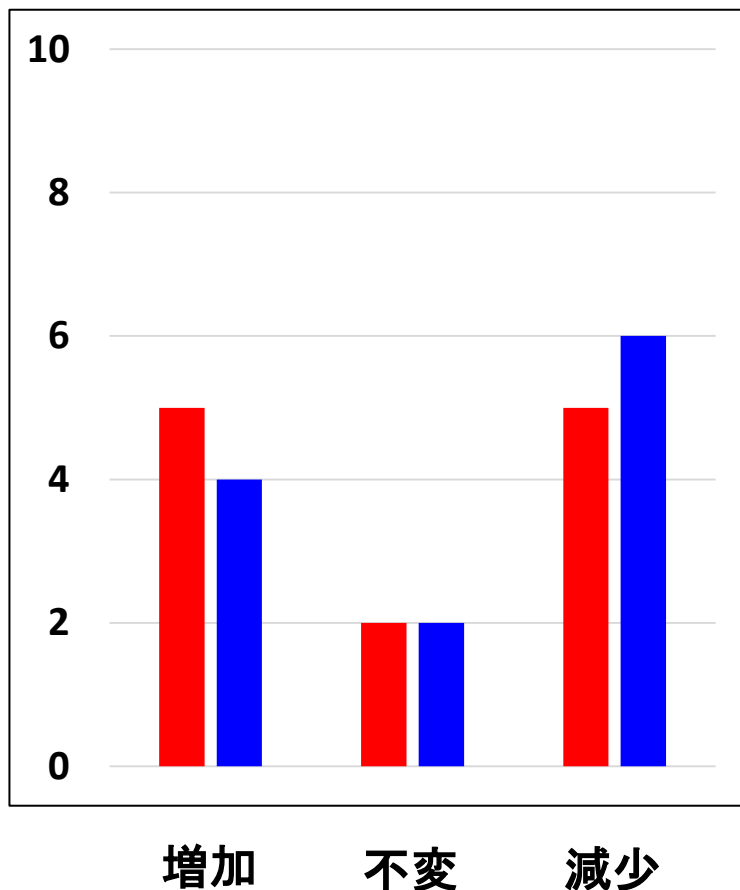
■ ヘルスケア（食品・化粧品・医薬品）

用途：食品添加剤、包装フィルムや容器、スキン&ヘアケア用品、一般医薬品など

売上 利益

ポジティブ

ネガティブ



<業界動向>

- 食品：市場は微増（食肉偽造問題 影響小）
- 化粧品：市場は微減
- 医薬品：市場縮小が継続中

<各企業の売上増減の要因>

- 新規顧客の開拓
- 新規製品を開発投入
- 製造や経費など、コスト管理の徹底
- 周辺諸国の市場開拓に注力
- 顧客との契約終了、経営悪化
- 価格競争激化（中国製品の台頭）

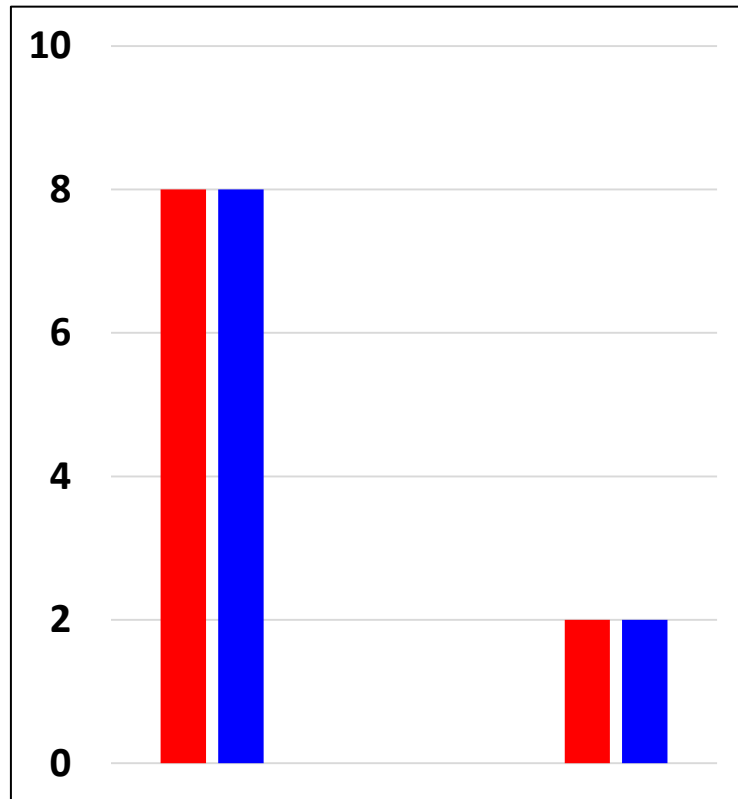
(2016年比較)2017年上期

3. 2017年上期の回顧と展望

■ ヘルスケア（食品・化粧品・医薬品）

用途：食品添加剤、包装フィルムや容器、スキン&ヘアケア用品、一般医薬品など

売上 利益



増加

不変

減少

<下期に向けた対策>

- 景気回復による消費増加待ち
- 新製品の導入
- 新規顧客の獲得
- プロモーション活動の強化
- 生産体制の見直し継続

2017年下期展望

3. 2017年上期の回顧と展望

■ 農業（農薬・飼料・肥料・酵素）

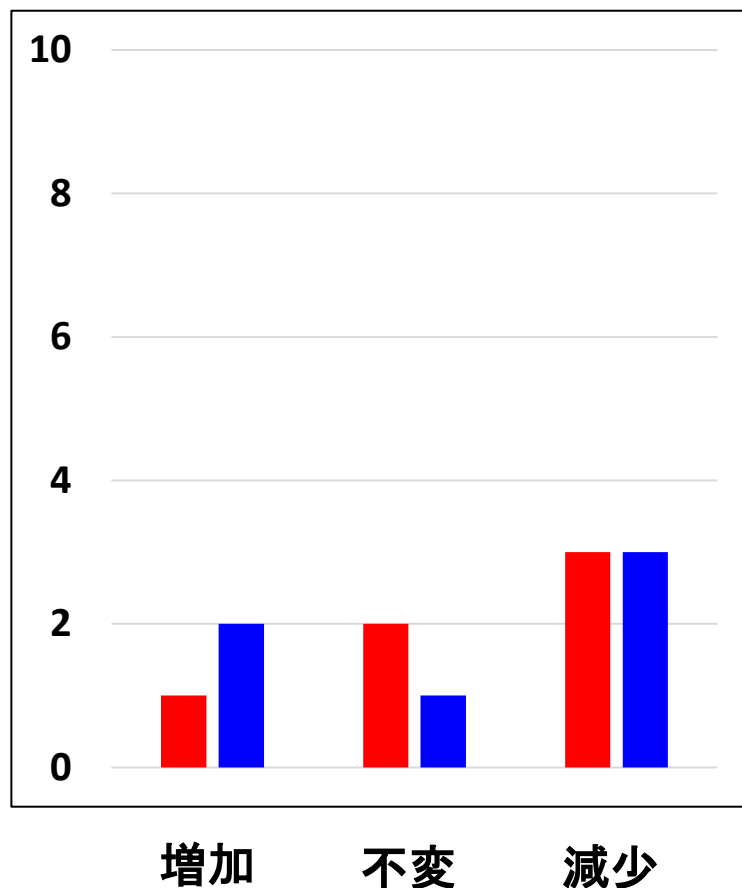


用途：殺虫・殺菌・除草剤、野菜やフルーツの薬剤、検診用酵素など

売上 利益

ポジティブ

ネガティブ



<業界動向>

市場は縮小傾向

<各企業の売上増減の要因>

■ 試験農場設置による開発の効率化

■ 経費削減

豊作による作物価格の下落

中国・インドからのジェネリック製品の攻勢

流通在庫過多

模倣品(違法品)が横行

(2016年比較)2017年上期

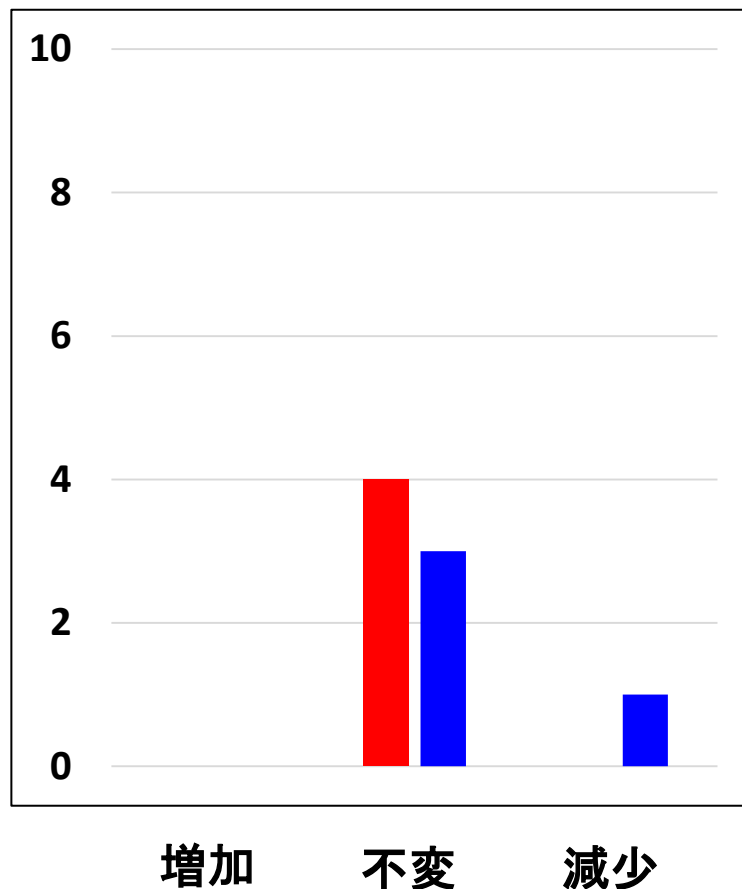
3. 2017年上期の回顧と展望

■ 農業（農薬・飼料・肥料・酵素）



用途：殺虫・殺菌・除草剤、野菜やフルーツの薬剤、検診用酵素など

売上 利益



<下期に向けた対策>

- 周辺諸国への展開
- 流通在庫の消化
- 新製品の導入
- 基本に立ち返った営業活動

3. 2017年上期の回顧と展望

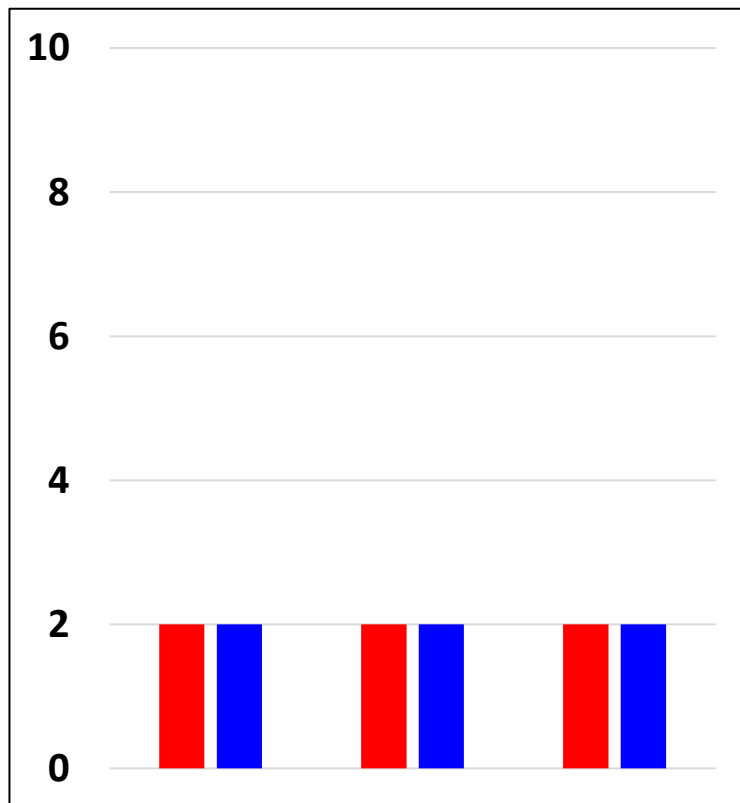
■ 印刷（インキ・フィルム・製紙）

用途：プリンター用インク、食品パッケージ用フィルム基材、感熱紙原料など

売上 利益

ポジティブ

ネガティブ



＜業界動向＞

□市場自体が低迷

＜各企業の売上増減の要因＞

- 高機能製品の展開
- 関連会社統合による経費削減
- 販売戦略の見直し
- 価格競争激化（税制の障害）

増加 不変 減少

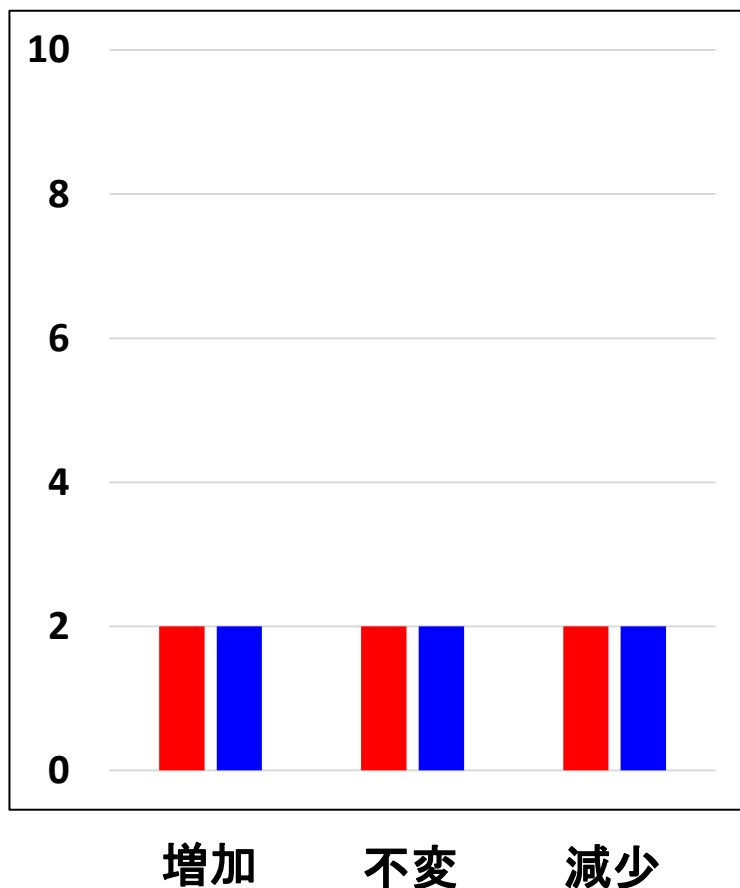
(2016年比較)2017年上期

3. 2017年上期の回顧と展望

■ 印刷（インキ・フィルム・製紙）

用途：プリンター用インク、食品パッケージ用フィルム基材、感熱紙原料など

売上 利益



<下期に向けた対策>

- 商流見直しによるコストダウン
- 周辺諸国への展開

2017年下期展望

3. 2017年上期の回顧と展望

■機器（工作・電気電子・医療）

用途：固定用接着剤、プラスチック部品、ソフトウェアなど

■建築

用途：床材、塗料、プラスチック部材など

■服飾

用途：合成ゴムなど

■コンシューマー

用途：接着剤、文房具など

項目	売上利益					
	上期回顧			下期展望		
	増加	不変	減少	増加	不変	減少
機器	1	1	3	1	3	1
建築	2		2	2	1	1
服飾		1			1	
コンシューマー	4	2		5	1	

4. 総括

ポジティブ

ネガティブ

2017年 上期

(一部の市場で需要の回復が見られる)

化学品部会: 低調な傾向

売上増加: 28/60件

- 昨年からの経済不振の影響が色濃く残り、信用不安が継続
- 消費者の購買意欲が未回復

2017年 下期

(各市場で緩やかな回復傾向だが…)

化学品部会: 我慢が続く

売上増加予測: 32/60件

- 周辺諸国への展開
- 新製品の導入
- 模造品の流通 (企業努力では対応できない)

5. 回復途上のブラジル経済 – いま打つべき戦略は

- 特許申請のスピード化
- 当局認可のスピード化・簡素化

日本の技術力が
生かせない

市場	内容	日本	ブラジル
(全般)	特許	2～3年	6～8年
農業	認可	3年	5～7年
医薬	認可	1年	3年

- 政治の不透明さ: 国家政策の推進、レアル通貨の安定
- 労働問題(過保護): 裁判関係(経費が膨大)
- 関税・税金: 販売価格のアップによる競争力低下

**「競争力豊かな」
制度(ルール)作り!**

「持続可能な競争力」格付2015年

順位	国名
1	アイスランド
2	スウェーデン
8	ドイツ
11	日本
24	ブラジル

保有資源、人口、
ガバメント能力など
から各国を評価

参考: SolAbility(スイス)

* 最後に

カネカ

ブラジル化学品部会所属

「4つの先見的事業を創出し、2020年度に1兆円企業の達成を目指す」

1. 環境: バイオポリマー(100%植物由来で、軟質・耐熱性生分解性ポリマーの開発は世界初)
→ ビニールハウスなどの農業資材に利用(土に埋めれば分解されるので利便性が高い)
2. 健康: 「再生・細胞医療プロジェクト」の立ち上げ
→ 細胞製剤の開発、iPS細胞を利用した創薬支援製品の開発
3. 情報通信: 超高熱伝導グラファイトシート
→ 熱伝導率が銅の約3倍で、モバイル端末の放熱に役立つ
4. 食料支援: 光合成を活発化させる新高機能肥料
→ 世界の食料不足問題に対する解決策の一つとして期待される

リンテック

「革新的新製品の創出により新たな成長を目指す」

保有技術を高次元で融合させ、独自性が高く、よる差別化した製品の開発
→ 従来とは全く異なる技術領域への挑戦「人口筋肉関連」

参考: 産学社

化学業界は「変化」に強い

化学業界自体の大きな変化、浮き沈みの激しいブラジル経済にも対応